

協議会への期待

主を知る大維新

シヤローム宣教会機関誌「声石」主筆

聖書と日本フォーラム会長

豊橋教会牧師

小石 豊



「日本民族総福音化運動！」信仰告白とはいえ、それにしてもドデカイスケールの協議会を発足したものだ。その霊的な信仰の心意気には心惹かれる。日本民族を對象に宣教しようというのだから、このぐらゐの巨大な幻を描かなくては神様も答えてくださらないに違いない。それで私も賛同者の一人として大胆な発想でお答えしたい。

(一) 携拳と出土のWパンチ
聖書は明らかに「携拳」を預言している。終末時代に起こるクリスチヤン消滅事件だ。私は患難時代の直前に携拳が起こるといふ神学的解釈に立っている。携拳が全世界に与えるシヨックは大きい。世界のあらゆる部門で活躍している人々が突然なくなるからだ。全世界はもとより、ユダヤ人が受けるシヨックは計り知れないが、日本人にとっても当然大きな問題となる。会堂は残ってもクリスチャンがいなくなるからである。

今まで私は、日本にイスラエル十部族や二部族が渡来した結果、国

家意識が生まれたという思想を發表してきた。神は「東の島々、日の出る所、地の果て」に彼らを隠したことが預言されているからである。更に、時至ってタイムカプセルが開かれ、天皇家の御陵や前方後円墳などからイスラエルを証明する御物が出土したとなるとどうだろう。ユダヤ人が調査団を派遣し、考古学の立場から共同調査を求めてくる。これは日本人にとって国体に関わる問題なので、国中が沸き返ることが予想できる。そして遂にイスラエル十二部族が渡来して、一体日本列島にどういう時代が到来するだろうか。

私はこの「携拳」と「出土」がほぼ同時期に起こるのではないかと予想している。これが起こったらまさに日本人にとってWパンチだ。このぐらゐの事件が起こらない限り、民族総てが福音を受けいれるきつかけは他にあり得ない。

(二) 十四万四千人は日本人か
黙示録七章の十四万四千人に注目しよう。彼らは御使いによって捺

印された。これは彼らに聖霊による特別な任務が与えられたことを表わしており、御使いが東から上ってきたのは、彼らが東に集中しているからと考えられる。

第一に、十二部族の名簿には幾つかの問題点がある。ダン族が入っていない。ダンについては「エチオピアのユダヤ人」「ア・シエルナウム著・鈴木元子訳」で、彼らはイスラエルが分裂した時からエチオピアに移動したと述べている。ということは、十四万四千人の捺印は全世界のイスラエル人から選ばれるのではなく、ダン族がいない地域から選ばれることを示している。

第二に、十二部族がバランスよく集結している地域はどこにあるのか。ユダヤ人は基本的に二部族中心なのでフランスが悪いと考えて全世界を見渡すと、なんと日本しかないことが見えてくる。神は古代にまぎら部族を、続いて二部族を押し込めて、時がくるのを待っておられると思われる。

第三に、黙示録十四章の十四万四千人の特徴を検索しよう。彼らは「初穂」「女に汚されない人々」「童貞」と述べられている。「初穂」とは、初めの収穫とそれに続く大収穫の約束だ。彼らは患難時代の初めに、イエス・キリストをメシアと信じた人々である。日本中が「携拳」と「出土」におののいている中で、自分たちがイスラエルの血を引く民族であり、その真理が聖書にあることをいち早く悟って真摯にみこばを学び、メシア・イエスを信じる人々である。彼らこそ日本民族救霊の先駆けである。聖霊に印を押されているから悟るのが早い。

第四に、教会は二千年という長い歴史と全世界という拡がりを持って拡大してきた。これを黙示録は歪

曲的に「女」に例えている。政治・経済・民族・教団などなど、丁度女が粉をこね回しているようではないか。しかも「女に汚されない人々」「童貞」と、同じ内容を二度繰り返すことによつて、彼らが二千年間続いてきたキリスト教「ヨーロッパ型福音宣教」とは全く異なる、地域限定の「日本型福音宣教」によつて救われることを強調しているのである。

第五に、十四万四千人が黙示録に出てくるのは始めと終わりの部分であつて、一番知りたい活躍部分は隠されている。その内容は恐らく次のようである。彼らは日本人に向かつて積極的に「日本型福音宣教」を展開し、多くの人々が「主を知る」(エレミヤ三一・三四)ようになり、国中が不信仰と偶像から悔い改め(エゼキエル三七・二三)、イスラエル十二部族の意義を自覚する。おそろく天皇の御一声が決定打となるだろう。そして国中に「主を知る大維新」が勃発する。これはものすこりバイバルだ。大化の改新や明治維新をしのご国家挙げての大維新、まさに「日本民族総福音化運動」が結実するのはこの時である。

第六に、「日本型福音宣教」は教会形成や会堂中心の宣教ではない。地域、市町村、部落中心の宣教となる。神社、お寺さん、市民会館、学校など、あらゆる公共機関、各家庭に人々が集まると、民族あげて聖書を学ぶ宣教で、その霊的国家的指導者が十四万四千人である。

第七に、こうして患難時代の終わりに、主イエス・キリストがシオンの山に再臨される時、十四万四千人はその地上の働きを完成して一斉に集められる。そうして、回復したイスラエルによる「千年期」の時代がスタートするのである。